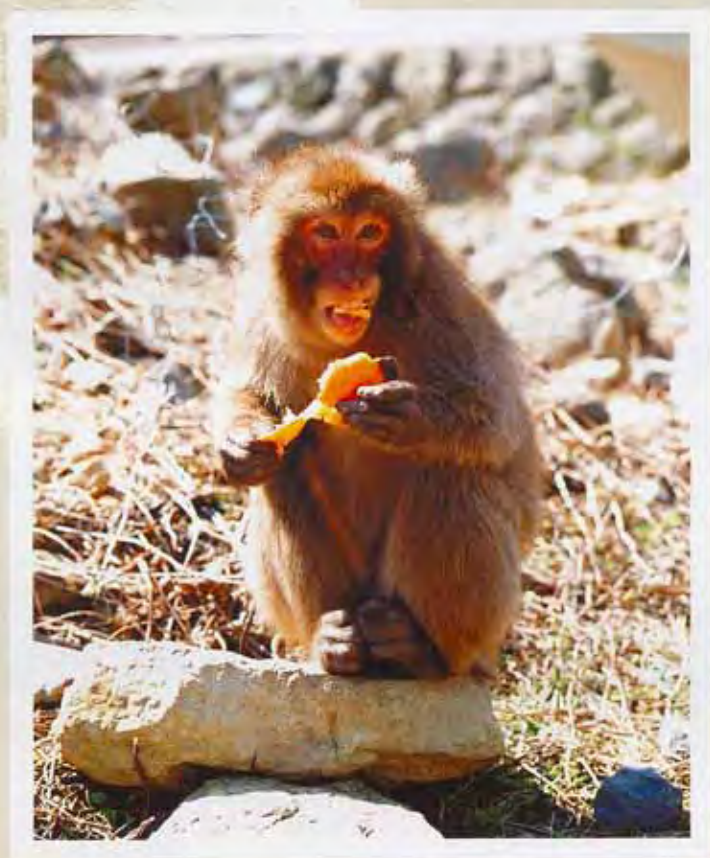


サル対策の手引き



山口県

サルの特徴 (ニホンザル)

自分のことなんですが・・・



サルの特徴を正しく知って、被害防止に取り組もう!

❖ 寿命と繁殖

野生のサルの寿命は20年前後です。
山奥のサルは7～8歳で初産し、以降2～3年に1回子を産みます。
栄養状態の良い里では、4～5歳で初産し、以降毎年子を産むサルが
できる場合もあります。



❖ 群れをつくって集団生活

基本的には集団(群)で行動します。
集団の中心はメスたちです。1匹が来て畑を荒らすと、
いずれ集団でやって来ると考えてください。

❖ エサを求めて集団移動

- 常にエサを求めて動いています。行動範囲があって、
その中を周期的に巡っています。
- サルは学習能力が高いので、ドングリや雑草であれ、農
作物であれ、満腹できた場所は「エサ場」として何度も
利用するようになります。

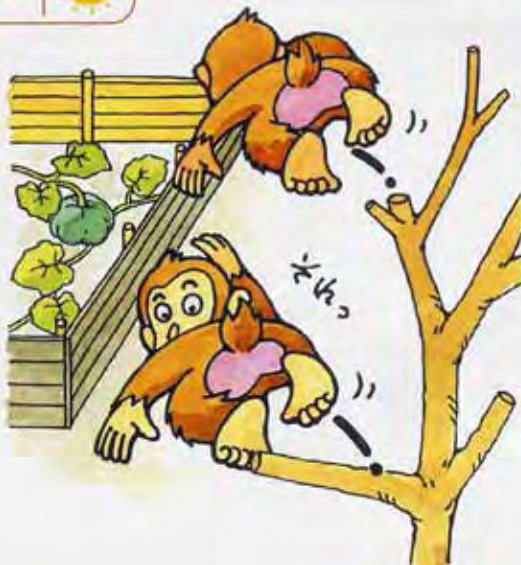


❖ 食性

- 雑食で、果実や虫などを好み、肉や魚は好んでは食べません。
- サルの活動時間は日中。近くに木があれば、簡単に柵越えしてしまいます。夜間は活動しません。

サルの活動は・・・

昼



夜



サルによる被害

ほくのわるさは…



果菜類・イモ類等の食害は年中発生します。特に春と秋に多くなります。群れで加害するので、被害が大きくなります。



被害状況(カボチャ)



被害状況(ダイコン)

農作物の味を覚えたサルの群れはこう変わる。

- 最初は畑などのものを盗んで行く。
- 3～5年たつと周期的にやってきて、新しいものの味を覚えていく。
- 10年以上になると、一部の種類をのぞきほとんどの農作物が被害をうける。
- 畑を荒らし始めた群れは、栄養状態が良くなるため繁殖力が旺盛になり、頭数が増加する。
- 人なれが進むと、家屋内の食物や人の持っている食物まで奪い始める。

被害対策のポイント

わたしの獲ることは……



ポイント 1

集落をエサ場にしない

取り残した野菜や集落内に放置された柿などの果実、捨てられたホダ木から出たシイタケ、稲のひこばえや落穂などは…

サルにとってはみんな食べ物



サルにエサを与えて呼び寄せているのと同じ

柵などを設置する前に集落を点検し、サルのエサ場としての魅力を下げることが防除の第一歩

ここが大事!

人まかせにしない! まずひとりひとりができることから始めて、集落みんなで協力し、サルのエサ場をなくしていこう!

被害対策のポイント

ポイント 2

サルの苦手な畑を作る

その1

見通しを良くしてサルが来にくいようにする。

⇒ 畑の周囲のヤブを刈り払い、サルの隠れ場所をなくす。

その2

サルが畑の中をのぞけないようにする。

⇒ 棚の内側に高さ1mくらいの目かくし(マルチ等)を張る。

その3

サルが好まない作物を植え、嫌がらせをする。

⇒ 守りたい作物の周囲にトウガラシやコンニャクなどを植える。

ポイント 3

サルを人になれさせない(追い払い)

集落ぐるみで、サルが出没したら常に必ず追い払うようにしましょう。

サルの唯一の天敵は人間 いつ集落にきても“怖い、危険だ”と学習させよう。



ここが大事!

集落ぐるみであきらめず、根気よく続けましょう。

ポイント 4

あきらめない

不完全な防護柵でも、やらないよりはずっと良いです。

一人でも多くの人が設置すれば、それだけその集落はサルにとって魅力がなくなります。

ここが大事!

無理してやると途中で息切れします。完璧を目指すのではなく、集落のみんながきちんと継続できる対策をしましょう。

ポイント 5

防護柵の設置

電気柵

- 農地を電気柵や簡易防護柵で囲んでサルの侵入を防ぎます。
- 飛び移られないよう、防護柵は周囲の樹木などから5m以上離すことが必要です。



サル用電気柵(ネット)

- 「サル用」の電気柵を使うこと。
- 高さは2m以上必要です。
- 下草による漏電を防ぐため、草刈りを丁寧にすることが必要です。
- 果実などの収穫物が無い時期でも、サルを引きつける物(廃棄作物等)があると、サルの群れはそのほ場をルートからはずさなくなってしまう。一年中サルが近づかないように管理しましょう。
- 一年を通じて通電する。
- エサ場をなくす。



よくきえよう!

これではいくら柵をしても電柱を登って侵入できます。

ここが大事!

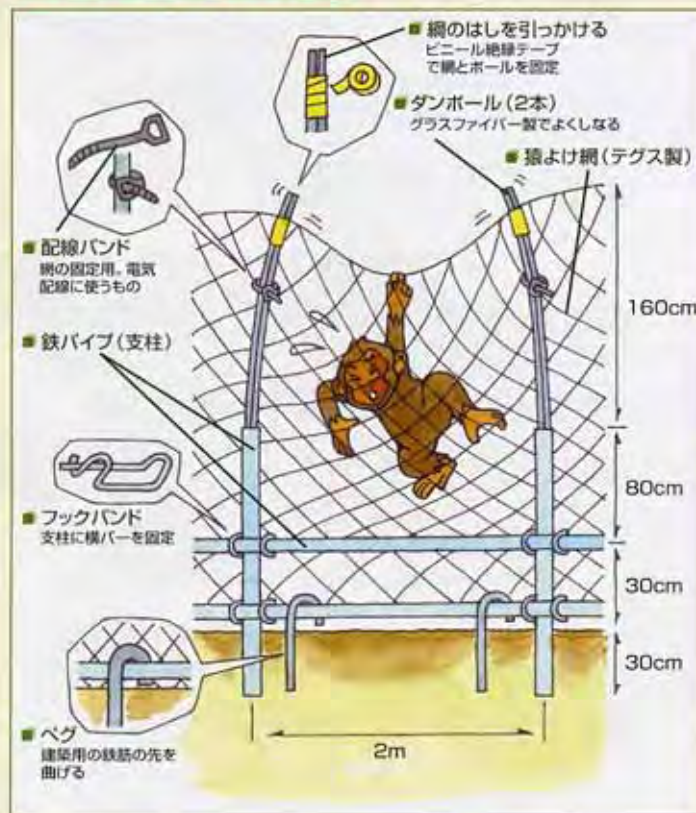
- 柵の日常管理が重要です。

■ 防護柵の設置後も

- “柵の外に収穫物を実らさない”
- “柵の外から収穫物に手の届かない間隔を保つ”
- “柵などの近くに踏み台なるもの(農機具、樹木、土地の傾斜など)を置かない”

などの注意が必要です。

猿落君(えんらくくん)



- サルの被害対策を研究している「奈良県果樹振興センター」によって提案された簡易柵です。

- 弾力のあるグラスファイバー製の支柱に、テグス網を張った網で、サルが登ると曲がって落ちる仕掛けです。

- もし侵入されても、同じ柵をサルの侵入形態(学習程度)にあわせて、支柱をボンボリ型にしたり、ヒサシを付けたり、機能を成長させることができます。

- 誰でも脚立なしで簡単に張れて、低コストです。



猿落君の県内での設置例(下関市)

県内のサル防護柵（電気柵）の設置事例 （萩市田万川平山台果樹団地）

① ネットタイプ



特徴

- ネット上にプラス極とマイナス極があるため、地面に足がつかなくても通電させることができる。

注意点

- 下草刈りを丁寧にしないと、漏電して効果がない。

② 金網+電線タイプ



特徴

- 電柵線が高い位置にあるため、下草による漏電がしにくく、日ごろの管理がしやすい。
- サル以外のイノシシ・シカなどの獣害にも有効である。

注意点

- サルが電柵線に触れないと通電しない。

③ 電線のみタイプ



特徴

- 電気柵の中では経費が安価である。

注意点

- 電柵線の間隔が広いと電気を感じる前にくぐり抜けられてしまう。



サルの接近警報システムの実証

電波発信機を利用して、サルの群れが人里に近づいたことを事前に察知し、追い払おうというものです。県内数カ所で行われています。システムを利用して地域住民自身がサルの追い払いを実施するなど、地域のかたの主体的な取り組みが必要です。



導入する場合のポイント

- 1 サルの接近確認や追い払いなどの役割分担を明確にした体制づくりが必要です。
- 2 サルの接近情報が必要な人に、迅速かつ確実に伝わる必要があります。
- 3 追い払いばかりでなく、地域全体で協力し、サルを近づけない環境作りが必要です。

追い払いの方法

声や音を出しながら人間が追いかけるのが効果的です。
大切なのは「人里に近づくな」という姿勢を常にサルに示すことです。
地域ぐるみで根気よく続けましょう。

- 大声を出したり、缶をたたくなど音を出して山の中に追い払う。
- 花火や爆竹などを利用し、追い払う。
- 飼い犬と一緒に追い払う。
- 追い払うのが難しい人は、サルに気づかないふりをしてそっと立ち去る（追い払えないことを悟られないようにする）。



サルの居場所を調査中の農家（山口市）

サル対策の順序

1 サルについて知ること

なにがサルの餌付けになっているか知るところから

2 無理せずみんなで、守れる畑・守れる集落への変身

サルにとって行きたくない場所に

3 可能なら畑を囲う

不完全な柵でも、やらないよりはずっと良い

4 有害駆除など

むやみな駆除はダメ（被害を及ぼすオスザルは駆除が有効）

※1、2をせずに3、4ばかり行おうとすると効果はありません。



鳥獣被害防止対策に対する問い合わせ先

最寄りの市役所・役場、または最寄りの農林事務所企画振興室まで

岩国農林事務所 企画振興室	TEL (0827)29-1561	岩国市三笠町1丁目1-1
田布施農林事務所 企画振興室	TEL (0820)52-2801	熊毛郡田布施町大字波野585-1
周南農林事務所 企画振興室	TEL (0834)27-0060	周南市毛利町2丁目38
山口農林事務所 企画振興室	TEL (083)922-5291	山口市神田町6-10
美祿農林事務所 企画振興室	TEL (0837)52-1070	美祿市大瀬町東分3449-5
下関農林事務所 企画振興室	TEL (0837)67-0014	下関市豊田町殿敷1892
長門農林事務所 企画振興室	TEL (0837)37-2155	長門市日置上1372-1
萩農林事務所 企画振興室	TEL (0838)22-4800	萩市江向河添沖田531-1

企画・発行 山口県
監修 井上雅央(奈良県農業技術センター)
発行 2006年3月
制作 社団法人 農山漁村文化協会

イラスト: 小島義昭
参考文献: 「山の畑をサルから守る」(井上雅央著、農文協刊)
「かしこく防ぐ鳥獣害」(江口祐輔監修、長野県農業会議発行)
「みんなで防ごう農林産物の猿害」(奈良県発行)
「かしこく防ぐ鳥獣害の手引き」(千葉県発行)